

# あい会い愛

淡路市に県立淡路景観園芸学校があります。「景観園芸」と聞いてもピンときません。どんなことを学んでいるのか。卒業後の進路は？ 学校を訪ねました。  
(福島早知子)

はりま何でも知り隊

## 県立淡路景観園芸学校



2年学ぶ景観園芸専門課程(09年度からは、県立大学の専門職大学院・緑環境景観マネジメント研究科に変更)と1年の園芸療法課程がある。

景観園芸は大学卒業者が対象。学年20人。造園、土木、建築などの分野に関連をもたせて、人と自然が共生するまちづくりを目指す。授業は、植物の基礎や都市景観などの講義が3割と、屋外での植栽や景観デザインなどの演習が1割。「実践的な演習授業の多さが大学との大きな違い。実際に庭園の施工や重機操作なども学びます」と同校総務部の植松稔裕さん(52)。4月に入学した高橋美和さん(25)は「理論より実践的に学べるのが魅力。将来は景観のデザインをしたい」。卒業生は公務員、造園施工会社、環境や建設などのコンサルタント会社に進む人が多いという。

園芸療法は、1学年15人。農業や園芸が人の精神や身体へ与える効用に注目して高齢者や身障者の健康増進を目指す。学ぶのは対象者別の療法の実習や医療、福祉関連の講義など。医療機関や福祉施設での実習もある。学生のほとんどは入学前、園芸や医療、福祉な

植物用いて人と自然が共生するまちづくり、

どの実務経験がある。取材した日は、庭の花を摘んで押し花を作る授業が行われていた(写真①)。大阪府の支援学校教員の本本雅信さん(53)は、休職して入学した。「授業で学んだことを生徒への新たなアプローチにつなげたい」

県は阪神・淡路大震災後、園芸療法に注目し、同校に公立で初めての園芸療法課程を設けた。卒業すれば、県認定の園芸療法士の資格を得る。

全寮制。敷地は本館や学生寮、園芸療法ガーデンなど13㌔と実習

林25㌔。

県民を対象にしたプログラム「まちづくりガーデナーコース」もある。テーマや参加日数などで「本科コース」「体験コース」「テーマコース」に分かれ、延べ5000人以上が参加した。

同校(写真②)は、99年4月開校。85年の「全県全土公園化構想」を進めていた県が、専門家の養成を目指して設立した。「学校教育法によらず県が独自に設立したユニークな学校」(植松さん)という。

健康増進など学ぶ

